

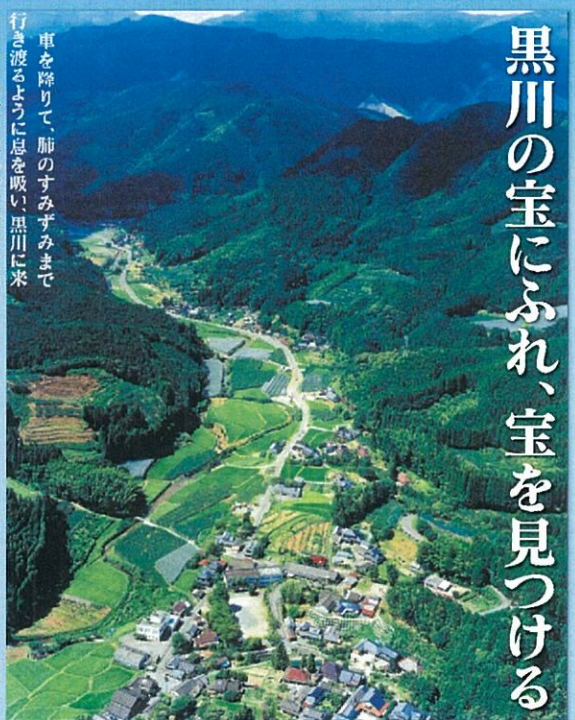
ここにきて、何かしら新鮮な空気の流れとともに、ゆったりとした時間を感じました。

このように、黒川には、山里の澄みきった空気と朝霧が林間から立ちこめる環境に育てられた黒川梨や米など自然の恵みもたらす宝だけでなく、人と文化の中にも宝がありそうだと感じました。今は閉校となった黒川小学校舎は、そのまま山里の美術館「共星の里」に变身し、自然と心の恵みをあわせた体験の場として、地域の人と訪れた人で新しいものを生み出しています。

車を降りて、肺のすみずみまで行き渡るように息を吸い黒川に。たとえ感覚を味わなくても、今回、黒川独特の山里もつ自然の恵みと人々がたづなってきた生活や文化を探しに訪ねてきました。「黒」という色の名のつく谷川が山間を流れ、六月中旬には、源氏蝋が乱舞し、夏のクリスマスマスのように杉林にとまる場所があります。また、この地は、かつて「黒川院」と呼ばれる英彦山の座主が住んでいた場所でもあります。座主は代々、約二五〇年間黒川に居住し、年数回英彦山へ出向いたと言われています。

車を降りて、肺のすみずみまで行き渡るように息を吸い黒川に。たとえ感覚を味わなくても、今回、黒川独特の山里もつ自然の恵みと人々がたづなってきた生活や文化を探しに訪ねてきました。

黒川の宝にふれ、宝を見つける



黒川院

1333年(南北朝時代)、後伏見天皇第6皇子長助法親王が南北朝の戦乱を逃れ、英彦山の座主として「黒川院」をつくり、14代座主まで居住しました。その居住地から様々な品物が発掘・出土しています。動物の置物も出土しており、子どもをたくさん産む動物などをモチーフに安産のお守りとしていたとも考えられます。

※座主とは大きな寺を統括する僧侶



自然と産物

黒川梨は、かつて「高木第1梨」としてブランド的存在で、出荷をしていました。黒川の地形による気象条件で、糖度の高いおいしい梨が生産されています。人口も減り後継者が少なくなった中、現在もおいしい産物を保ち続けようと頑張っています。

黒川のゲンジボタルは、杉と谷川の地形により、山里独特の乱舞がみられます。6月中旬が最盛期となり、この時期は、大型バスによる見学者も多くいます。



香には白い花、棘にはみずみずしい実をつける。ゲンジボタルは乱舞し、杉林はクリスマスツリーになる

農業体験

毎月第2週は
きらきら美花美化週間
きららちゃん

発行期間 平成25年3月15日～6月30日まで

田植えや芋ほりなどいろいろな農業体験も行われ、朝倉市近隣から多くの親子づれが参加しています。県主催の「農業農村体験ツアー」にも48名が参加しました。体験農園の林利則さんは「ここを訪れる人たちが、自然の中で土にふれ収穫することで、心と体のリフレッシュができる場を提供できれば幸いです」と語っていました。



共星の里

山里の美術館「共星の里」では、各教室や廊下に、国内外のアーティストたちの作品が置かれ、展示は、人々の集いと食の場として利用されています。子どもをはじめ多くの方が訪れ、ゆっくりとした時間と新鮮な空気の中、いろいろな体験や人との交流が行われています。共星の里の尾藤悦子さんは「アート作品にじかに触れることができ、自然の中で体験するワークショップは大好評です。これからも体感する喜び、空想し創造することの大切さを伝えていきたいです」と語っています。

環境保全活動紹介

シリーズ 第10回
コカ・コーラウエスト(株)甘木営業所
清掃活動で地域貢献



朝倉市屋永のコカ・コーラウエスト(株)甘木営業所(所長:岡本弘 従業員数:29名)では、毎月1回始業時に、営業所周辺のゴミや空き缶拾い、草取り等の清掃活動を行っています。小野塚副営業所長は「10数年前から地域社会への貢献活動の一環として取り組んでいます。今後も周辺美化に努めるとともに、筑後川ノーボーイ運動にも参加していきたいです」と話していました。

朝倉市自然発見ツアー

朝倉市の良さ発見と情報発信



平成24年10月20日(土)に朝倉市自然発見ツアーを開催し、市内外の10家族(大人15人、子ども19人)に参加してもらいました。「スイゼンツクリ」、「二連・三連水車」や「キリンビール工場」を見学し、それを元に絵はがきを作成しました。参加された市内のご家族は「ずっと市内に住んでいても、地元だからと知らないこと、行ったことがないところがたくさんあると常々思っており、今回とても良い機会だった。まさに発見でした。」と感想を言われていました。来年度は、さらに魅力あるツアーを計画したいと考えています。

詳しくは、朝倉市自然発見ツアー 検索